

調査団体名	NPO法人 恵那市坂折棚田保存会		団体代表者名	田口譲(理事長)	
設立年	2003年 全国棚田サミットに参加、集落で保存会結成 2006年 恵那市坂折棚田保存会に拡大 2008年11月 NPO法人化		団体URL	<a href="http://sakaori-tanada.com/">http://sakaori-tanada.com/</a>	
活動地域	恵那市坂折集落		会員数	120人(半分は坂折、あとは恵那市や名古屋市など)	
取材日	2009/9/13	レポート作成者	辻淳夫	調査員	寺井、本田、佐藤、松原、辻
<p>&lt;活動内容&gt;</p> <p>1)「石積み塾」・・・3年前から実施。  2)「稲田オーナー制度」・・・田植え、草取り、稲刈りの日帰り3回。1組1アールの稲作り体験。現在50組150人。  3)Uターン、Iターンの募集。  4)地元の小学生へ高校生に、田んぼ作業の体感授業。</p>					
<p>&lt;会のモットー(何を大切にしているか)&gt;</p> <p>きれいな坂折棚田の景観を守り、次の世代にきちんと伝えていくこと。</p>					
<p>&lt;設立から現在に至るまでに変化したこと&gt;</p> <p>当初は、定年退職者を中心に、兼業農家の土日、夜間に作業するボランティアとしてやってきたが、高齢化で無理がきかなくなり、若い人が有償でできる方策、ブランド米の販売で都会の方に支えてもらうように。</p>					
<p>&lt;連携している団体・専門家・自治体など&gt;</p> <p>恵那市の文化財課、棚田学会、NPO法人 棚田ネットワーク、伊勢・三河湾流域ネットワーク、森の健康診断</p>					
<p>&lt;今までに行った調査・研究&gt;</p> <p>2003年、京都大学金田先生のチームが詳しい調査をし、データは恵那市の文化財課にある。</p>					
<p>&lt;現在直面している課題&gt;</p> <p>○棚田オーナー制度の参加者が全過程をやりたいが、日帰り3回では無理。宿泊施設をつくりたい。  ○不況で、2007年から名古屋の米屋に出しているブランド米の売れ行きが落ちている。  ○保存会の活動は「なごみの家」でやっているが、借家である。</p>					
<p>&lt;今後やってみたいこと&gt;</p> <p>○棚田博物館(資料館)をつくりたい。設計図はできているので、今年中に検討して来年には実現したい。  ○山主や、ボランティアで、森の健康診断で学んだ杣(そま)組の組織をつくって、人工林(スギ林)の間伐を進めたい。</p>					
<p>&lt;そのためにはどんな情報・人脈が必要か&gt;</p> <p>○森の健康診断のつながり、石積み塾、棚田オーナー制度の参加者、ブランド米の利用者、観光客、サポーター。  ○源流域の清流を維持している、中間山村の暮らしの厳しさを理解し、都市住民が支えてくれるような社会。</p>					
<p>&lt;チームオリジナルの質問&gt;</p>					
質問内容:	光と影(自慢したいことと、抱えている悩み、課題)				
答え:	<p>○自慢は、①も②も、坂折棚田の素晴らしさ、石積み棚田の美しさ。人を引き付ける力があるから。  ○気にしているのは、魚が少なくなったこと。どうもおかしい。植林50年、森をもとから直したい。  ○山の上にある湿地帯から水苔を取って売っていたのをやめたり、間伐してから、水涸れしなくなった。</p>				

<その他、伝えたいこと>

本格的な棚田を見たのは初めてだったので、その存在自体がうれしく、すっかり魅せられた。刈り取り前の黄金色に輝く棚田を撮影にきているカメラマンや観光客も多かった。棚田の上にある山に岩が見えたので尋ねたら、「権現山といい、そこからの展望は素晴らしい」ということで、田口さんが山主の鈴木さんに案内を頼んでくださった。30分ぐらい登った権現山の岩の上からは、眼下に棚田全体が見えるだけでなく、山並みのかなたに名古屋のツインタワービルが見えた。よく晴れば、伊勢湾の海が光って見えるとのこと。権現山こそ、まさに大切な源流の森で、だから権現神社で守られているのだ。「山から海まで」の、生命地域(=流域)を一望に収めた実感が持てた。



理事長の田口さん



恵那市坂折棚田風景



茶屋の右に見えるのが、「なごみの家」



権現山からの棚田の全貌



遠くに名古屋のツインタワーが見えた